

小金井市立保育園の在り方検討委員会 意見・提案シート  
(令和6年7月22日開催分)

- 前回もそうでしたが、今回も最初から最後まで市長がいるのはなぜでしょうか。諮問した会議のようすはあとで部局に聞いて確認することはできます。諮問した当人がその審議の場に同席して監視するようなことは控えるべきではないでしょうか。市民の自由な議論に圧力をかけているようにも見えてしまいます。  
○公立保育園の役割についての議論にもっと時間をかけるべきと思います。普光院さんの講義はとても重要と思いますが、じっくりと学ぶ機会を作ってはいかがでしょうか？今日の委員からの質疑を聞いても理解がされていない方もいるように思います。アンケートをつくるためやWSのための委員会なのか、と問うた委員もいらっしゃいました。実際、アンケートの議論にかなり時間がかかっていました。アンケート等についてのみ議論する回も必要ではないでしょうか？全体のスケジュールを改めて見直して、しっかりとした議論ができる環境を整えるべきと考えます。まずは、いったん、裁判の判決に沿って、もとの条例に戻し、募集を再開し、正常な形に戻した上で、議論をすすめていくべきと考えます。
- 古山委員の言っていた現場の見学については是非やっていただきたいと思います。
- 冒頭、約一時間の内容の殆どが、何故第一回の際に意見を言わなかったの？といったもので、主要議題について議論する時間を十分にとれていない気がします。ファシリテートの話もでしたが、タイムキーパーは必要に思います。また、座学的なパートにも大きく時間をとられていますが、委員の方にはぜひ事前に内容を把握して臨んで頂きたいです。前回に引き続き議論を巻き戻す委員がいらっしゃるのが気になります。
- 年長児への意見の聞き取りについてですが、そもそも意見表明権は生まれた直後の乳児から、笑う、泣く、おこるなどの表情により子どもが意思を表明していることを、大人の側が尊重しなければならないという、大人側の義務について言及しています。今回のことのように「保育園がなくなっても良い？」というようなことを大人側から聞くのであれば、例えば「子どもの意見表明支援員」など、専門の訓練を受けている人により成されなければならないと思います。  
○毎回の委員会、会議間のメールでのやり取りなど、委員の皆様には御苦勞様です。公開の会議の後、事務局も含めて他の場所で二次会が行われているといううわさを耳にしました。うわさだけなら良いのですが、もしこのようなことが本当に行われているのだとすると、裏で何か行なわれているのではないかと、市民は疑いを持ちかねません。議事録として公開される以外の集まりは避けるべきではないでしょうか。勿論、委員間での自由意思に基づく研究は、これをはばむものではありませんが。
- 西東京と世田谷という、先駆的な例は大変参考になって良かったですが、西東京

の特性として、旧田無市部分と、旧保谷市部分で、保育園の考え方が全く違っていました。保谷市は都丸市政の下、人口5万で公立保育園が10園ありました。ですので、西東京市になった後に市内でのアンバランスがあったのではないのでしょうか。又、世田谷区については、資料制定時の保育課長と区長の下で、保育の質を向上させる施策が沢山実施されていました。区の独自補助金を人件費比率の低い園からはがすなど、他の自治体がモデルとしているような施策が沢山あります。

○中学校区に1公立保育園という考え方は、小金井市の児童福祉審議会でも提唱していました。子どもの動線で考える時、可能であれば小学校区に1公立保育園というのがさらに望ましくあると思います。

○待機児ゼロは喜ばしいことですが、隠れ待機児はいないのでしょうか。

○発達支援については、公立はOT、STグループになって定期的に行われていると聞いています。こういったことは、公私の別なく行えることが望ましいのではないのでしょうか。